

第2回

朝霞市総合計画審議会議事録

令和5年10月31日

政策企画課

会議録

会議の名称	第2回 朝霞市総合計画審議会	
開催日時	令和5年10月31日（火） 午前10時00分から午前11時56分まで	
開催場所	朝霞市役所別館2階 全員協議会室	
出席者及び欠席者の職・氏名	別紙のとおり	
議題	（1）市民意識調査等の調査項目について	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・資料1 朝霞市民意識調査（案） ・資料2 朝霞市民意識調査 対照表 ・資料3 朝霞市青少年アンケート（案） ・資料4 朝霞市青少年アンケート 対照表 ・資料5 基礎調査の取りまとめ状況 ・資料6 基礎調査に係る策定委員会からの指摘事項等 ・参考資料1 定住・子育てに関する意識調査 ・参考資料2 転入・転出意識調査 ・第6次朝霞市総合計画策定方針 	
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
傍聴者の数	なし	
その他の必要事項		

出席委員（19人）

会	長	知識経験者	中村年春
副	会 長	関係団体	松尾哲
委	員	市議会議員	福川鷹子
委	員	市議会議員	山口公悦
委	員	市議会議員	利根川仁志
委	員	農業委員会	秋山磨弥
委	員	教育委員会	平木倫子
委	員	関係団体	加藤弘樹
委	員	関係団体	高橋甚次
委	員	関係団体	渡辺淳史
委	員	関係団体	渡邊俊夫
委	員	知識経験者	内田奈芳美
委	員	知識経験者	原田晃樹
委	員	知識経験者	星野敦子
委	員	知識経験者	村上文洋
委	員	公募市民	浅田陽子
委	員	公募市民	一宮光夫
委	員	公募市民	酒井正弘
委	員	公募市民	高橋満

欠席委員（1人）

委	員	公募市民	原田佐登美
---	---	------	-------

事務局（6人）

事	務	局	市長公室長	稲葉竜哉
事	務	局	政策企画課長	櫻井正樹
事	務	局	同課主幹	齋藤欣延
事	務	局	同課政策企画係長	福田幸世
事	務	局	同課同係主任	山本良太
事	務	局	同課同係主事	伊藤舞香

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・齋藤主幹

それでは、定刻となりましたので、第2回朝霞市総合計画審議会を開会します。

なお、本日、原田佐登美委員から欠席の連絡をいただいています。

はじめに資料の確認をいたします。

本日の会議では事前にお配りした、

- ・資料1 朝霞市民意識調査（案）
- ・資料2 朝霞市民意識調査 対照表
- ・資料3 朝霞市青少年アンケート（案）
- ・資料4 朝霞市青少年アンケート 対照表
- ・資料5 基礎調査の取りまとめ状況
- ・資料6 基礎調査に係る策定委員会からの指摘事項等

以上の資料を使用いたします。全てお揃いでしょうか。

また、本日机上に参考資料として、

- ・参考資料1 定住・子育てに関する意識調査
- ・参考資料2 転入・転出意識調査
- ・第6次朝霞市総合計画策定方針

をお配りしています。

「策定方針」は、第1回の審議会で委員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、会長に御一任いただいた修正案について、10月19日の庁議に諮り、10月24日付で決定されたものです。

また、参考資料は、過去に実施した調査の調査票です。こちらについては、後程、御説明します。

次に、会議開催に当たり、1点、お願いがございます。会議録を作成する都合上、発言される時は、まず挙手をしていただき、会長に指名をされてから、御発言くださいますようお願いいたします。また発言の前にマイクのスイッチを入れていただき、発言が終わりましたらスイッチをお切りください。

それでは会議の議事進行は中村会長に進めていただきます。中村会長、よろしく申し上げます。

○中村会長

少々早い時間に、お集まりいただき恐縮です。皆様大変お忙しい中、時間を調整して今日おいでいただいたと思います。今後、開催時間等も含めて少し検討してまいりたいと思いますので、引き続き御協力をお願いします。時間も限られていますので、早速議事に入っていきたいと思います。

なお、本会議は、傍聴要領に基づいて傍聴人の入場を許可していますが、本日は今のところどなたもいらっしゃらないということです。これから傍聴人がおいでになった際には、傍聴要領に基づいて入場を許可しますので御了承ください。

次に、前回の審議会に所用で御欠席の委員がいらっしゃいましたので、自己紹介をしていただきます。最初に、利根川委員からお願いいたします。

○利根川委員

みなさん、おはようございます。朝霞市議会選出の利根川仁志です。よろしく申し上げます。

○中村会長

利根川委員、ありがとうございます。続いて、星野委員、お願いいたします。

○星野委員

皆様おはようございます。十文字学園女子大学の星野と申します。日頃から大変お世話になります。よろしく申し上げます。

○中村会長

星野委員、ありがとうございます。

それでは、議事次第に従って議事を進めていきます。

◎2 議事

(1) 市民意識調査等の調査項目について

○中村会長

本日の議題は、「市民意識調査等の調査項目について」です。

先ほど、資料の説明であったように、市民意識調査と青少年アンケート調査の2つがあります。最初に、市民意識調査について、事務局から、御説明をお願いします。

○事務局・福田係長

それではまず、朝霞市民意識調査について説明させていただきます。

資料1が調査票(案)、資料2が設問ごとに、設問の意図や過去調査との比較を行ったものです。

資料1を御覧ください。この調査は、第6次総合計画を策定するに当たり、まちづくり等についての市民の意向を把握するために実施するものです。地域別、年齢別、男女別の比率を考慮した上で、無作為で抽出した、18歳以上の市民3,000人を対象に、調査への回答を依頼します。調査は11月下旬から1か月程度を予定し、回収後、1月下旬の集計完了を予定しています。また、調査票の回収率については、35%から40%を想定しています。参考として過去の数値を申し上げますと、令和元年度に実施した際の回収率は、市民意識調査36.6%、青少年アンケート36.2%でした。

調査項目の検討に当たっては、第5次前期基本計画を策定した際の平成26年の調査や、後期基本計画を策定した際の令和元年の調査を基に、現在の社会情勢等に照らして見直したほか、庁内各課に調査票の設問を募集し、都市計画マスタープランや、生涯学習分野の設問等を新たに設けています。

なお、この調査票案は、10月16日に開催した、部長級職員で構成する策定委員会での意見を踏まえ、設問の追加や選択肢の整理等を行ったものです。

資料1の1枚目は、調査票には綴じこまず、封筒に同封するものです。表面には調査のお願い、裏面には総合計画の概要を記載しています。2枚目からが調査票として綴じこむもので、ページ番号を下に振っています。この後の説明は、このページ番号を基に説明させていただきます。

調査票1ページのF1から、2ページのF10までは、回答者御自身のことを伺う設問です。設問自体は、前回調査と同様の項目としていますが、前回調査からの変更点としては、ジェンダーへの配慮から、F1の性別の項目に、「どちらとはいえない」を追加しました。なお、F6の設問で「幼少の頃から朝霞市に住んでいるか」を伺っていますが、この幼少とは、幾つくらいを想定するのかという御質問を、事前に村上委員からいただきました。その際は、6歳くらいまでを想定していると回答させていただきましたが、幼少という表現は回答者により認識が異なることと、この設問は次の「どこから転入してきたか」に繋げる設問であるため、「生まれた時から」に修正したいと考えます。この点についても、後程、御意見をいただければと存じます。

次に、2ページ中段から3ページにかけての間1から間3は、「朝霞市の住みよさ」についての設問で、定住意向や、その理由を伺うものです。こちらも、前回調査と同じ設問とすることで、経年比較をできるようにしています。

3ページ中段から4ページにかけての間4から間8は、「地域との関わり」として、回答者の地域での活動状況や、まちづくりに参加しやすくするために必要と考えることを把握するもので、こちらも前回調査と同じ設問としています。

4ページ中段から5ページにかけての間9から間12は、「市政について」として、市政への関心度や、その理由などを把握するもので、前回調査と同じ設問としています。

6ページから10ページにかけては、間13、「市の全般的な取組について」として、第5次総合計画後期基本計画の大柱ごとに、満足度と重要度を伺います。構成は前回調査と同様で、大柱ごとの施策を記載することで、満足度等の評価を行いやすくしています。この設問は、重要度が高いが、満足度が低い項目などを洗い出すことを目的としています。

11ページからは、「これからのまちづくり」について意向を伺う設問です。間14と間14-1は、前回調査の時にも伺っていますが、第6次総合計画の基本構想策定に当たり、望ましい朝霞市のイメージを伺うもので、将来像を導き出すための表現も把握します。選択肢については、前回調査を基に、都市計画マスタープランの視点も入れて、選択肢の追加等を行いました。

間15は、10年前と比較して充実してきた分野と、今後10年で力を入れるべきと考える分野を伺います。前回調査では、今後どのようなまちにしていきたいかという設問で分野を回答いただきましたが、今回調査では、過去の取組をどう評価するかを把握できるような設問を追加しました。

12ページ、13ページの間16から間19は、基本構想をイメージした設問です。間16は今回調査での新規項目で、未来に活かしたい市の取組として、市民の考える強みを把握するもので

す。問17は、前々回調査と同様の設問で、人口減少・少子高齢化対策の方向性を探るものです。問18は今回調査での新規項目で、若者や子育て世帯の移住定住促進の方向性を探るものです。問19も今回調査での新規項目で、高齢者や障害のある方が生活する上で重視することを把握する設問で、庁内の策定委員会の意見を受けて追加したものです。

問20以降は、基本計画をイメージした設問です。問20は、前々回の調査と同様の設問で、災害対策として行政に期待することを伺います。問21、問21-1は、今回調査での新規項目です。庁内に設問募集をした際、生涯学習・スポーツ課から、現在の生涯学習やスポーツの取組状況について、設問の要望がありました。次期計画策定に向けての調査であるため、今後の取組に対する意向を伺う形としています。問22、問23は、前々回調査と同様の項目で、農地の保全・活用の方向性や、自然環境の保全・活用の方向性を把握するものです。

問24から問26は、今回調査での新規項目です。庁内に設問募集を行い、都市計画マスタープラン関連として、要望のあった設問です。都市基盤整備の方向性や、土地利用の方向性を把握するものです。問27、問28も今回調査での新規項目です。アフターコロナにおいて重視する取組や、行政のデジタル化を進める上で市民が重視する取組を把握するものです。

最後の問29は自由意見欄として、今後のまちづくりや市政についての御意見をいただきます。

ここまでが市民意識調査の調査項目についての説明です。

なお、調査票案の1枚目に戻っていただき、記入に当たってのお願いの5を御覧ください。まちづくりについて広く市民の皆さんの意見を伺うため、1月にワークショップの開催を予定していますが、この調査票を送付する際に、市民ワークショップの案内も同封したいと考えています。

当初は、より多くの方に参加いただくため、申し込む機会を増やしたく、調査票に参加申込書を同封して御返送いただきたいと、現在の記載としていますが、アンケートの匿名性を考慮するとともに、同封を強く意識させることが懸念されるため、同封したい方は同封していただくという表現に修正したいと考えています。説明は以上です。

○中村会長

御説明ありがとうございます。

御承知のように時代環境も変わってきて、社会環境も随分大きく変化してきました。そのため、前回同様の調査項目で良いかどうかというのは、御意見のあるところかと思えます。ただ、各項目についての経年変化を見るためには、どうしても比較する必要があるため、あまり大きな変更は憚られる部分があります。そのような中にあっても、新規の項目も入れ込んでありますので、かなり苦労して作成したであろうと想像されます。

審議会の委員には、この方面の専門家もお出でになるし、公募市民の委員の方には、このような項目もぜひ入れてほしいとか、新規にこのような質問内容もあった方が面白いのではないとか、さまざまな御意見があろうかと思えます。ついては、忌憚なく御意見、御質問を出していただければと思います。では、どなたかおいでになりませんか。

山口委員、お願いします。

○山口委員

市議会などでよく取り上げられる問題というのは、市内の移動の問題です。デマンド交通の話なども出ますし、限られた予算ですので、取り組んでいるものが自分のところに回ってきていないというような話もあります。また、地域によっては買い物難民というところがあって、市の方もいくつか個別に対応をしたことがあるのですが、十分にはなっていないということもあります。そういう課題の捉え方がどの辺に出てくるのかと関心を持ちながら見ましたが、なかなか難しいのかなと思いました。

もう一点は、朝霞市の場合、1番人口が多いのは42、3歳ですね。いわゆる子育て世代で、仕事では肩書きもついて忙しい時期で、ここの人口の流動が一番多いです。ですから、その時に朝霞市から出て行く方も多いです。朝霞市の場合、御存知のように乳幼児や小・中学校、保育園などの体制は他市よりもずいぶん頑張っていますが、一定程度それが終わった段階で、住まいはどうか、御主人の職場に近い方がいいのかということで、東京もマンションの価格が若干下がりましたから、そちらに移ろうか、それとも将来的なことを考えて東松山などの方に行こうかなどの選択肢があります。市長もそこが一番の悩みだと話していたのですが、このあたりの意識なども見えてくればいいなと思います。

また、朝霞市は住まいが高いと思います。賃貸も高く、ふじみ野市、富士見市に行くと家賃が10,000円違います。駐車場代も同様で、朝霞市は10,000円ですが、ふじみ野市や富士見

市では8,000円くらいです。若い人たちにとってはそういうところなども、大きな選択の理由の一つになるかなと思いますので、その辺も見えてくるようなことを質問したらどうかと思いました。

○中村会長

山口委員、ありがとうございます。

御意見の内容は、大きく2点あったかと思います。一つは、市民の移動に関する課題への視点です。公共交通をめぐる問題は、今や全国的な課題ですが、朝霞市としての対策をこれからどうするかということです。朝霞市は、多くの自治体が人口減少という問題を抱えている中であって、人口が増加しているという非常に嬉しい状況があります。反面、どこの地域でも同じですが、御多分に漏れず朝霞市においても高齢化率が高くなって、高齢者人口が増えてきています。ほぼ毎日のように、ニュース等で報じられていますが、高齢者による交通事故、特に高齢者の自動車運転による人身事故やトラブルが頻発しています。その点を考えると、朝霞市においても高齢者の移動対策というのは、一つの大きな焦点であろうと思います。

それともう一点は、40代の中堅層にはぜひ朝霞市にとどまっていほしいと思っているのに、その人たちが朝霞市から流出してしまうというのは、朝霞市にとっては大変大きな損失です。市としても、今後それらへの対策を模索していく必要がありそうです。

朝霞市の住宅費や駐車場代の高騰は、都心へのアクセスの良さや交通の利便性が向上したことによる影響だと思われそうですが、その点を考慮しても若い世代が朝霞市を選び、流入して来ているというのは大変に有難いことで、その理由を問うてみるというのもあり得ると思います。

主には先の2点だと思いますので、これらを市民意識調査の中に落とし込めないか、というのが御意見の趣旨です。

では、櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

まず、一点目について、第5次総合計画の後期の支柱では、委員がおっしゃったところまでは読み取れないのですが、例えば8ページの18番の道路交通というところは掘り下げると公共交通の問題も入っています。これだけではわかりにくいということもありますので、一点目としていただいた意見については、都市計画マスタープランと連携し、この市民意識調査の項目として取り入れるのか、都市計画マスタープランのアンケートで取り入れ、成果を総合計画でも活かしていくのか調整して、必要な項目は取り入れていきたいと考えています。

また、二点目については、例えば2ページの住み良さというところで、問1から問3まで、特に問3の、市外に出たい方というところで意見をいただいています。委員がおっしゃいました選択肢はピンポイントでは入っていませんので、9番のその他で聞くか、新しくわかりやすい選択肢を追加するか、検討していきたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。ぜひ御検討をお願いします。

内田委員、お願いします。

○内田委員

項目を厳密に見ると恣意的なものが結構あるのですが、以前のアンケートとの比較で、あまり変えられないのだろうと思ったのですが、問17だけはどうしても気になりました。40代50代も10年、20年経てば御高齢になるので、多様な世代が住むという視点が抜けているのではないかが気になりました。もちろん、若い世代の人口を増やして、というのがあると思うのですが、項目としてこの4つだけでいいのかというのを御検討いただき、御高齢の方も住みやすく、今の40代、50代の方も長く住み続けるという視点がよかった方がいいのではないかと思います。

二点目は全体のことなのですが、統計調査等でも回答してくれないという問題があると思うのですが、最初につける用紙に、これは、あなたにとって何の役に立つのかという話や、回答に何分くらいかかるのかなど、回答してみようかなという心をくすぐるようなものを入れていただければ、回答率がさらに高まるのではないかなと思いました。

○中村会長

内田委員、ありがとうございます。

事務局から、御回答をお願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。一点目について、選択肢の幅を広げる方向で検討させていただきます。

ます。人口減少と少子化対策の方向性でこの選択肢を設けたのですが、高齢者の方の支援ということも踏まえ、見直していきたいと思います。

また、二点目については、表紙の裏面に総合計画とは、という内容を書いていますので、それを踏まえながら、委員に御意見いただいたように、何のために役立つアンケートなのかといった項目と、何分ぐらいかかるかを、表紙の「ご記入にあたってのお願い」の3番に、回答の目安は何分程度ですと書いていますが、わかりやすいように表現の仕方を変えていきたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

内田委員の二点目の御質問に関連してですが、この記載自体はテクニカルな問題であり、解決は容易であると思います。問題は、市民が声をあげていろいろなことを言っても、果たして市政のどこにその意見が反映されているのだろうか、意見は出したけれども、それがフィードバックされていないのではないのか。この種のアンケートに対する回答率が低いというのであれば、そこには徒労感とか、無力感のような市民の意識が根底にあるのではないかと思います。

この表紙の裏面「総合計画とは」の記載箇所に落とし込むのもいいのですが、例えば、御回答いただいた内容はこのような形で政策に反映していく方向で考えていますので、若い方も含め市民の皆さんは多くの御意見を出してくださいなど。あまり難しい表現ではなく、声をあげればそれが何らかの形で市民のための計画に反映されるのだという実感が得られるような記述を添える、内田委員が御指摘の心がくすぐられるような内容をもう少しここに落とし込めば、市民もそれを捉えてアンケートに協力してくれると思います。少し工夫していただければと思います。

酒井委員、お願いします。

○酒井委員

6 ページ目の問13ですが、問13以降、満足度と重要度の項目がありますが、例えば書き方としては中柱ですかね、防災消防と書いてあります。質問の意図がわかりにくく、われわれ市民がどういうことを具体的に回答すればいいのか、この項目だけで理解できるのか疑問です。

確かにこの計画の冊子を全部読めば、こういうことを行政が目指していて、こういうことについての質問なのか、と理解できるのですが、補足資料がないと、この中柱の項目で質問されても、何を質問され、どのような回答を期待されているのかというのがわからなくて、市民と行政サイドのミスマッチが起きるような気がするので、何かいい方法がないのかなと思いました。ここに質問内容を具体的に書くというのもスペースの問題など、いろいろ難しい面もあると思うのですが、何か工夫が必要かなという気がします。

○中村会長

酒井委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。こちらに出している表現については、事務局としては普段当たり前に触れているものなのですが、確かに市民目線からしますと、これだけ言われても、ピンとくる方と、解説が必要な方といるのだろうというのは改めて認識しました。

スペースの問題もあるのですが、委員がおっしゃったように、例えば表現を少し噛み砕いたものにするなど、御意見を受けて事務局で検討したいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

原田委員、お願いします。

○原田委員

私も同じところを難しく思いました。すごく関心のある人は答えられると思うのですが、関心のない人はおそらく適当に丸を付けてしまうと思います。調査をするときに、できれば、あまり関心がなくて適当に丸をつける人は除きたいと思うので、過去の流れもあると思いますが、例えば関心がないとか、わからないという人は除いて丸をつけてもらえると、より関心のある人の意向がくみ取れるかなと思います。

関心がない人がみんな重要だと丸をつけたりすると、本当に必要だと思うところがむしろ埋もれてしまうのではないかなと思うので、それについて検討していただくといいかなと思います。

○中村会長

原田委員、ありがとうございます。

原田委員がおっしゃったのは、それぞれの項目に関心があるとか、ないとかとつけ加えるという意味ですか。

○原田委員

分からない、関心がない、があつて難しいかもしれないですが、例えば、防災に関心がない人が、防災の取組を見ても、多分わからないと思います。

○中村会長

項目を立てればよい、ということでしょうか。

○原田委員

分からない・関心がない人を重要度・関心度の項目を選択することから外してもらえると、関心のある人だけの問いができるかなと思ったのですが、難しいかもしれないので検討していただけますか。

○中村会長

原田委員、ありがとうございます。

これもアンケートを作成するときのテクニカルな問題です。内容を精査するという意味では、非常に大事な視点だと思います。ただいまの御指摘は御意見でしたので、事務局は、それを踏まえながら項目を作り変えるなど、御検討いただければと思います。

平木委員、お願いします。

○平木委員

最初に説明いただいたところです。あなたの性別はというところで、ジェンダーへの配慮として、「どちらとはいえない」という文言を入れたということですが、この文言は一般的に使っているものなのでしょうか。私もネットなどで調べてみたのですが、「その他」「回答しない」「無回答」という項目が出てきました。「その他」ですと、疎外感を与えるということであまりよくない、と感じました。

それであれば、「回答しない」とか、「無回答」がいいのではと思います。「どちらとはいえない」というと、例えば自分は女性とはいえない、男性とはいえないという答えなのか、どちらかとはいえない、答えたくないという意味なのか、捉え方が難しいですし、こういった性別を答えたくないという方もいらっしゃると思います。そのことについてどうなのかということをお聞きしたいです。

それから先ほどもお話にありました、表紙の件ですが、こちらのアンケートを見ますと、3行目に令和8年度からの計画の策定に着手しているところですが、とあるのですが、読んで行けば今第5次総合計画があつて、次の計画の策定のためのアンケートだということはわかるのですが、どこにも第6次朝霞市総合計画という文言が入っていないのですね。やはりこの計画ができたときに、自分がこの第6次朝霞市総合計画に関わったという意識を持っていただきたいと思うので、可能であれば、第6次朝霞市総合計画という文言を入れていただけたらどうかと思います。

最後にもう一点、内容のことですが、少子高齢化ということで子どもたちのことはとても大事ですが、今後高齢化が進む中で、定年が延長するなどということも出てくると思うので、65歳以上の就労支援について、朝霞市では今もシルバー人材センターやハローワークなどで支援していると思うのですが、例えば東京都などでは65歳以上の就労支援を新たに立ち上げているようですし、他の市でも取り組んでいると思うので、今後、そういったところにも目を向けていく必要があるのではないかと思います。

○中村会長

平木委員、ありがとうございます。

平木委員からは、3点の御指摘がありました。最初の御質問ですが、回答者の性別を問うのに「どちらともいえない」という表記はいささか奇妙であるという気はしています。社会調査では、このようなとき普通はノーアンサーですから「無回答」とします。いろいろな事情があつて答えたくありません、という選択肢として設定した項目だと思うので、「どちらともいえない」だと男性とも、女性とも言えないと捉えられるおそれがあり、少し違和感があります。

ここは平木委員がおっしゃったように、表記を少し工夫してほしいと思います。今の時代、この項目を立てるのは大事なことだと思いますので、表現の仕方を少し検討していただければと思います。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

今いくつか御質問がありましたが、その一点目に限ってのお答えになります。男女の性別については、策定委員会の中でも、今この時代、聞くのはどうなのか、なくしてもいいのではないかという意見もいただいたのですが、この先、集計・分析等をしていく中で、やはり必要な項目かなという事で残すことになりました。

次に選択肢はどうするのかというときに、「答えたくない」「どちらでもない」「男性」「女性」と合わせて4つにするか3つにするかというところで、意見が分かれました。御意見を受けまして、「答えたくない」という方向の選択肢について、表現を含めて検討させていただきたいと思いません。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

引き続き、二点目の第6次朝霞市総合計画の表記がどこにもないことについて、櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。おっしゃる通り、何のためのアンケートかが伝わらないということがありますので、先ほど別の委員からいただきましたアンケートへの文言の反映と合わせて、全体的に検討の上、修正したいと思います。

また、三つ目の高齢者の支援ですが、例えば13ページの間19、高齢者が安心して暮らせるまちというところで、別の視点ですが選択肢を増やすのか、または改めて御意見いただいたような高齢者の就労支援を踏まえた項目を一つ追加するのかについても、事務局で検討させてください。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

関連して、私の方から一点お願いです。可能かどうか分かりませんが、元号で表記されると、さて何年前だったかな、と誤ってしまいます。これが西暦で表記されていると、すぐに理解できます。行政機関は、元号で表記する習わしなのは承知していますが、例えば、西暦と併記するとか、工夫があってもいいのではないかと思います。検討していただければと思います。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。今、市でも、和暦のあとに括弧で西暦の表記もしていますので、御意見を取り入れていく方向で検討させていただきたいと思いません。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

村上委員、お願いします。

○村上委員

3点ほどあるのですが、その前に、私も元号表記だけではわかりにくいと思っています。1つ目は、今回、Webでの回答ができますが、前回計画策定時の調査でも、Webの回答はできたのでしょうか。

○中村会長

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

Web回答については、前回は取り入れていません。

○村上委員

分かりました。二次元コード読み取りでの回答ができるようになっていきますので、おそらくスマホで回答する人が多いと思うのですが、この調査票をそのままWebに載せると、ものすごく回答しにくいので、スマホ用の回答サイトを作り、それを大勢の方に試していただいて、回答しにくい箇所を直すという作業が必要だと思います。先ほど伺ったら、調査期間がまもなく始まるようなので、サイトが大丈夫なのかなと心配です。回答者が脱落してしまうと回答数が減ってしまうので、サイトについては徹底的に回答しやすいようにチェックさせていただきたいなと思います。その上で回答結果を年齢別に見て、Webで回答した人と、紙で回答した人の傾向を見ていただくと、今後の調査に参考になるかと思いません。それが一点目です。

二点目が、さっき山口委員から、なぜ朝霞市を選んだか、というような話がありました。今日、参考資料2で転入世帯用のアンケート調査を配っていただいたので、こちらの調査と市民意識調査を、どううまく分析して検討するかを考えていただくといいかなと思いません。

最後、三点目が、青少年の調査は実施しますが、同じように外国籍の人が市の行政サービスや住み心地についてどう思っているかが今後重要になると思いますので、市民意識調査の中で行う必要はないのですが、別途、青少年のように外国籍の方向けの調査やグループインタビューなどもして、総合計画に反映していくといいかなと思いました。

○中村会長

村上委員、ありがとうございます。貴重な御指摘だと思います。特に三点目は、これから日本は多様性を尊重する共生社会に移行しなければならないので、とても大切な視点だと思います。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。今、紙ベースでの調査票の作成と並行して、Webページもコンサルタントの方で作成を進めていますので、早い段階でテストをして、なるべく答えやすいように、職員で試すなどしたいと思います。

他2点いただいています。Web回答者の年齢の把握や、外国籍の方向けの設問についても、青少年アンケートに入れるのか、市民意識調査に入れるのか、総合的に調整して、調査に載せる方向で検討したいと思います。

○中村会長

村上委員、お願いします。

○村上委員

市民意識調査に入れる必要はないと思うので、別途調査等をされたらいいのではないかと思います。

○中村会長

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

今後、他にも意見を収集する場をたくさん設けますので、そういった中でいろいろな方から意見を集めていきたいと思います。

○中村会長

村上委員、櫻井課長、ありがとうございました。

星野委員、お願いします。

○星野委員

3ページの地域との関わりのところですが、問5では団体等への加入と活動の両方について聞かれているのですが、最初に積極的に活動しているという選択肢があり、その後は加入しているが活動していない、加入していない場合と選択肢が続きますが、これは答える方にしてみると、例えば団体などには入っていないが、こういった活動には参加しているという方もいらっしゃるでしょうし、団体が主催する会に参加者として参加をしているという方もいらっしゃると思います。加入していないが関心はあるという3つ目の選択肢については、団体加入に関心があるのか、活動そのものに対して関心があるのかがわかりにくく、団体に加入することと、活動そのものが、この調査票では混乱しているような印象を受けます。

どのぐらいの方が加入しているかということを知りたいのか、それともこういった活動に対してどのぐらい参加をしているかということが知りたいのかを、少し整理して、聞き方を少し工夫された方がいいのではないかと思います。

また、次の4ページですが、問6は、様々な主体が協働してまちづくりを行うというビジョンがわが国では持たれている中で、市民の今の意識を聞くという意図だと思うのですが、はっきり質問の意図がわからないというか、ネットワーク型の協働社会に向けて何が必要で、何が障害になっているのか、ということをはっきりさせるような質問にしてほしいという印象を持ちました。

そういう意味で、問8には参加しやすくするためにはどのようなことが必要だと思いますか、とありますが、これは答える方としては、参加したいけれどもこういう理由で参加できないとした方が、非常に明確に回答者自身の答えが出てくると思います。自分の自由な時間や余裕がある人は多分参加できるでしょうねというような形で選ぶよりも、その人自身に今余裕がないから参加できないということを知りたいので、こういう聞き方ではなく、参加をするために障害になっていることはどんなことなのか、というような形で聞くと、その人自身の現状というのが出てくるのではないかと思います。

○中村会長

星野委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いいたします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。3点いただいたと思います。まず一点目の3ページの間5については、コミュニティ活動の取り組み状況の把握ということで、答えやすいように構成等を見直してまいりたいと思います。

また問6、問7、問8も含めて、回答の流れ、全体的なものを見直します。御意見をいただいたように、問8は自分の立場で回答しやすい設問と項目にするなど、再検討したいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

松尾副会長、お願いします。

○松尾副会長

問5に関することです。星野委員の御意見にも納得したのですが、私は、自治会・町内会への加入に非常に興味があります。活動しているかどうかのこの4項目に加えて、その回答を選んだのはなぜなのか記入する欄を作っただけでないかと思います。町内会に対して批判的な考えの方ももちろんいらっしゃいますが、東日本大震災以降、町内会の有用性や必要性を感じている方もかなり増えてきている気がします。

私としては、親睦や防犯、災害対策等の意味で町内会を捉えて、加入していただきたいという思いに加え、行政として、そういう方向性を打ち出せないかという思いがあります。

今、自治会・町内会加入率が4割を切るような状況にあります。しかも高齢化、後継者不足になっていますので、実際に町内会活動に携わっている者が参考にできるような御意見も、こういったところから吸収できればいいかなと思っています。そういったことを議論する場を今後作っただければ一番いいと思うのですが、そこまではなかなか難しいと思うので、意見として吸い上げることができればいいかな、と考えています。

○中村会長

松尾副会長、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。先ほどもお答えしたのですが、3ページの間5の構成自体を見直そうと考えていますので、その中で松尾委員からいただいた、その選択肢を選んだ理由、町内会に加入する、しないだけでなく、しない方のお考えも拾い上げられるような選択肢や、記述の部分など、検討させていただきたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

平木委員、お願いします。

○平木委員

10ページの31の行政のところですが、過去の調査との対照表を見て思ったのですが、項目31は前回もあったのでしょうか。31行政の1番下にシティ・プロモーションの展開というのがあるのですが、ここにいる皆さんは分かると思いますが、年配の方には、シティ・プロモーションというのが分かりづらいのかなと思います。例えば5ページ目の最後の方に、行政が提供しているサービスの一例ということで注釈がありますが、こういったものを入れたらより答えやすいのかなと思いましたので、検討していただけたらと思います。

○中村会長

平木委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いいたします。

○事務局・櫻井課長

先ほどもお答えしましたとおり、シティ・プロモーションの展開という表現も含め問1の全ての項目について、検討していきたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

渡邊委員、お願いします。

○渡邊委員

1 ページのF 4 の職業形態というところですが、ここには、永続的に続いている職業が書いてありますが、実際に朝霞市に住んでいる方は皆さんここに当てはまるのか疑問です。この選択肢には当てはまらないという答えも出てくるのではないかと思います。

○中村会長

渡邊委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。こちらの各選択肢については、前回調査の選択肢をそのまま使用していますが、社会情勢は変わっていますので、御意見を踏まえて選択肢について検討したいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

利根川委員、お願いします。

○利根川委員

問13の7ページの7番の保健・医療のところですが、今、予防医療に関して御意見・御要望をたくさんいただいています。例えばインフルエンザの予防接種は、65歳以上の方は1,500円で接種できます。また、問27の11番に三密回避、ワクチンと感染予防対策の継続という項目もありますが、今後、コロナワクチンが無料でなくなった時に、市民の方に5,000円、10,000円負担して打っていただけるかという、考えるところだと思います。

また、带状疱疹ワクチンも、1回20,000円かかるという状況もあるので、この7番の健康づくりの支援という言葉だけでは賄えないという思いがあります。予防医療の推進や予防医療の充実という点を付け加えていただければと思います。御検討をお願いします。

○中村会長

利根川委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。他の質問でもお答えしておりますとおり、こちらの項目については、第5次総合計画の柱立てをそのまま入れていますので、中身を精査し、分かりやすい表現や言葉にしたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

高橋委員、お願いします。

○高橋委員

1 ページF 5、あなたの勤務先、通学先はどちらですか、という質問で、その後も記載できる内容になっていますが、昔と違い、今はオンラインで、東京の会社に所属はしているが、実態として朝霞市の御自宅で仕事をされている方もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。そういうパターンの項目もあった方がさらにいいかなと思いました。

○中村会長

高橋委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。F 5 の選択肢の6番に通勤通学していないという項目も設けていますので、例えばここにオンライン含むと記述するなど、御意見を踏まえて検討していきたいと思っています。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

浅田委員、お願いいたします。

○浅田委員

7 ページの項目8の社会保障というところ、これだけでは何のことかわからなかったです。黒丸のところを見ると、社会保障制度の適正な運営ということで、タイトルと同じで、やはり理解ができなかったので、具体的にどのようなことなのか、もう少し黒丸を増やして説明いただいた方がいいかなと思います。

○中村会長

浅田委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いいたします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。繰り返しの回答になりますが、こちらの問の全体的な項目については、各項目、わかりやすいように噛み砕いた表現等、できるだけ多くの方に回答いただけるよう、わかりやすいような表記にしたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

ただいまの浅田委員の御質問に関連しますが、例えばこの調査項目では、問13の3～7はすべてである意味で社会保障制度における個別、具体的な内容であるともとれます。そのうえ、さらに8で社会保障「社会保障制度の適正な運営」が出てくるので、私もいささか違和感があって、この記載だけでは理解しづらいと思いました。3～7の項目の中にも8の社会保障へ持っていける選択肢もあるように思いましたので、そこを御検討いただければと思います。

加藤委員、お願いします。

○加藤委員

関連したのですが、今Webでの回答ページを作成中ということで、特に問13のところは、例えば防災消防であれば、そこをタップすれば防災消防に関する計画の抜粋版が出てくるとか、そうしたものがあれば、回答時間も短くなり、スムーズかなと思いました。

○中村会長

加藤委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

Web回答フォームについては、御意見等を踏まえ、できるだけ短時間でわかりやすく回答できるようなフォームとなるよう検討していきたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

星野委員、お願いします。

○星野委員

先ほどの3ページ問5のことで、松尾副会長からの御意見もあったので少しだけ補足をしたいと思います。私も実は、自治会・町内会については今後の防災のことも含めて非常に市にとっては重要な点でもあると思うので、どう組織率を高めていくかということが大きな課題だと思います。

ここについてはやはり加入しない理由を聞くなど、どういうふうにしたら加入者を増やしていけるのか、というヒントを得られるような形で質問項目を作るといいのではないかと思います。それで、質問のイ以下は、どちらかという活動の状況について聞かれるという内容だと思いますので、やはり組織率等との関わりについては分けた方がいいのではないかと思います。

○中村会長

星野委員、ありがとうございます。

私も一応自治会には入っています。活動も少しはしていますので、これについては別立てで問う、というのも一つの方法かもしれません。今後の方向性が見えるかもしれないので、検討していただければと思います。お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。問5については、町内会の部分だけの特出しにするかという点も踏まえ、再考させていただきたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

山口委員、お願いします。

○山口委員

設問の中で、産業活性化・産業の育成と支援というのが9ページ目にありますが、商工の関係、あなたは買い物を市内でしていますかという話が見えてきません。住むところを選ぶ中には買い物、医療、お子さんがいらっしゃる方は教育が上位の理由になると、妻が言っていましたが、買い物について、どうしても都内に行ってしまう、という話もありますよね。まちのお肉屋さん、魚屋

さん、豆腐屋さんもなくなってきたり、減ったりしています。そのような買い物の動向も見られたらなと思います。全部スーパーや大型店に行くなど、流れは見ることもできるかなと思います。

まちの活性化ということで、私はここの担当なので関心のあるところです。東京で視察に行くとしたら大山の商店街に行っていたのですが、そのような所でもいろいろ問題があるようです。そのあたりが動向として見られる設問があるといいのではないかと思います。

○中村会長

山口委員、ありがとうございます。項目として新しく立てるか、どこかにそれらの項目を落とし込んで聞くか少し工夫して欲しいということですね。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。先ほどから皆さんから御意見をいただいている問13については、大枠で捉えるような表現の設問になっています。9ページの23の産業活性化は買い物等の市民の話ではなく、例えば企業誘致などを捉えている項目です。

委員のおっしゃった買い物としては、例えば2ページの問2、買い物など日常生活が便利だから、といった設問を設けています。例えば産業の個別計画に関する設問であれば、事細かく設定して答えてもらうのもいいと思うのですが、総合計画は幅広いものなので、どこまで掘り下げていけるか、御意見を受けて検討いたしますが、限りがあることは御理解いただきたいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

皆さんの御意見が出尽くしたような感じがありますので、市民意識調査（案）については、この辺りで終わりにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員

（異議なし）

○中村会長

「市民意識調査の調査項目について」、委員の皆様から、たくさんの御意見を頂戴いたしました。ありがとうございます。事務局は、これらの御意見を参考に、再度検討してください。

続いて、青少年アンケートについて、事務局から、御説明をお願いします。

○事務局・福田係長

それでは青少年アンケートについて御説明します。資料3が調査（案）、資料4が設問ごとに、過去調査等との比較を行ったものです。本日は資料3について説明させていただきます。

このアンケートは、朝霞市の将来を担う若い世代が、日頃どのようにまちを見ているかを把握するため、12歳以上18歳未満の方から1,000人を抽出し、回答を依頼します。中学生から高校生の世代を対象とすることから、調査項目を絞り、質問文や選択肢をより簡易的な表現にしています。実施時期は市民意識調査と同時期を予定しています。

資料1の1枚目は市民意識調査と同様、調査のお願いと、総合計画の概要を記載しております。

資料の2枚目、調査票1ページを御覧ください。F1からF6までは、回答者御自身のことを伺う設問です。F4の設問で「小学校入学前から朝霞市に住んでいるか」を伺っていますが、市民意識調査と合わせ「生まれた時から」と修正したいと考えます。

2ページの問1から問5は、「朝霞市に日頃感じていること」として、朝霞市への愛着やその理由、定住意向を把握するものです。前回調査と同じ設問とすることで、経年比較もできるようにしています。

3ページから4ページにかけての問6から問9は、「これからのまちづくりについての考え」として、望ましい朝霞市のイメージや、今後力を入れたい分野などを伺い、基本構想の策定に活かすものです。問6、問7、問9は、市民意識調査でも同じ設問を設定しています。この問9は、市民意識調査と同様、今回のアンケートから新規で追加した項目です。

4ページから6ページにかけての問10から問13は、「地域との関わり」として、地域との関係性や、身近な相談相手の有無、学校外での過ごし方などを把握することで、基本構想や基本計画に活かすものです。

6ページを御覧ください。問13は、今回調査での新規項目です。学校外での過ごし方として、どのような場所があればよいか、単に場所を聞くのではなく、目的・用途という視点から聞くものです。中段部分の問14、問15は、今回調査での新規項目です。問14は、市の情報を市内外に発信する取組について、若者世代が重視する内容を把握するものです。問15は、行政のデジタル

化を進める上で市民が重視する取組を把握するものです。こちらは、市民意識調査でも同じ設問を設定しています。

7ページの間16、間17も、今回調査での新規項目です。間16は、青少年の視点から、朝霞市の自慢と考えるものを把握する設問です。間17は、「あなたが市長だったら何をしたいか」を伺うことで、青少年が考えるまちづくりを探るための設問です。

青少年アンケートについての説明は以上です。

○中村会長

御説明ありがとうございました。

調査対象の年齢層が12歳から18歳という非常に微妙な世代なので、アンケートの項目を作成するのに、少し工夫が必要だと思います。委員の皆様から、御意見、御質問を頂戴したいと思いません。

一宮委員、お願いします。

○一宮委員

2点質問させていただきます。12歳から18歳と非常に幅広いの無作為抽出ですが、年齢ごとに一定数を抽出するのか、ランダムに行うのか、場合によっては12歳が30%くらいとか、18歳が30%くらいとか、比率を決めて抽出するのでしょうか。

また、間2・間3で、12歳の子どもに朝霞市を好きですか、と聞いたときに、子どもだと親御さんに相談したり、聞いたりすることもあるのかなと思います。間7は、自分がまだ子どもなので、子育てしやすい環境、教育環境が整っていますか、と言われても判断ができるのかという部分が気になります。間8についても、18歳でしたら答えられると思いますが、12歳では親御さんに聞いて親御さんの意見が反映されてくるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○中村会長

一宮委員、ありがとうございます。

事務局から、御回答をお願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。まず抽出者の年齢については、12歳から18歳未満のそれぞれ年代別に何名というのではなく、全体でのランダム抽出という形でこれまでも行ってきましたので、今回もそう考えています。

二点目は、設問の読み取りやすさやわかりやすさかな、とお話を聞いて思いました。12歳の方が親に聞くというのはある程度は想定していますが、あくまでも本人がある程度答えられる年齢ということで考えていますので、回答する方が読み取りやすいような選択肢の書き込みについて見直ししていきたいと思えます。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

酒井委員、お願いします。

○酒井委員

二重の質問になりますが、やはり12歳と18歳ではだいぶ違うと思えます。18歳は成人ですね。12歳だとまだ中学1年です。同じ質問項目が本当に理解できるのか、この聞き方で、行政が期待しているのと同じ思いで答えられるのかな、と疑問を感じます。

そういう視点でいくと、例えば市の職員で12歳から18歳のお子さんがある方に、何が聞きたいか質問の意図がわかるか、答えられるか、と試していただくことも一つの方法かなと思います。検討、工夫いただければと思いました。

○中村会長

酒井委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。年齢別にアンケートをそれぞれ作るというのはなかなか難しいことですので、わかりやすい表記に合わせる手法をとることになると思えます。これまで、例えば第5次前期計画の策定の際ですとか、他の部署のアンケート実施の際に、職員のお子さんに見てもらったこともありますので、今回の御意見を踏まえ、それが本当に分かるかどうかを考えていきたいと思えます。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

ざっと見た感じ漢字が多いという気がします。12歳の子どもだと、漢字ばかりだと少し抵抗があるようにも思います。

村上委員、お願いします。

○村上委員

票数が少ないのでクロス集計はしなくてもいいと思うのですが、年齢については1歳刻みで聞いておいた方が、どの年齢の人の回答が得られているのかが分かっていいかなと思いました。2区分だと大括りすぎると思いました。

また、重要度は低いのですが、市外に通勤通学しているかどうかを聞いておくと、他の町のことも経験しているかどうか分かるので、もし可能なら入れた方がいいかなと思いました。

○中村会長

村上委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。まず一点目ですが、今回、対象年齢の幅が狭いので、1歳ごとの選択肢で考えていきたいと思えます。

また、通勤通学等についても、移動の流れも分かってくるので、設問について検討したいと思います。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

渡辺委員、お願いします。

○渡辺委員

問11で困ったときの相談相手を聞いているのですが、せっかくこれを聞くのであれば、何に困っているのかというのでも聞いたほうがいいのかと思います。例えば友人関係や家族、学校などの例示をして選択できるような聞き方もあるとは思えます。地域との関わりというカテゴリーには合わないかもしれないですが、相談相手を聞くのであれば相談内容も聞いた方がいいのではないかなと思いました。

○中村会長

渡辺委員、ありがとうございます。

櫻井課長、いかがですか。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。個人的な悩みの方が強いかなと思うので、アンケートにどれだけ近い形で表記ができるかわからないのですが、御意見を踏まえて検討させていただきたいと思えます。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

高橋委員、お願いします。

○高橋委員

問1、問2、問5の項目の中で、その他という選択肢が入っていないのですが、これはあえて入っていないのでしょうか。他のところには全部、その他という項目が入っているので、それについてお聞かせください。

○中村会長

高橋委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。特段意図はございません。例えば問1ですと、関心がありますか、という質問で、あるかないかという選択肢を作ったのですが、その他を加えて何か意味のあることを書いていただけるのかどうかも含めて、選択肢を他に増やすかどうか検討していきたいと思えます。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

高橋委員、お願いします。

○高橋委員

大人向けの市民意識調査と青少年アンケートとの比較という話なのですが、F 1 あなたの性別はということで、大人向けは3番で性別を表記しないという選択肢があって、今の時代ですからいいと思います。子どもによってはそういう問題があるということは知っていますが、私の考えが古いのかもかもしれませんが、子どもたちには戸籍上の男女というのがはっきりありますから、男女だけの表現でもいいのかなと思いました。

いろいろな考えの方がいらっしゃると思います。どうでしょうか、ということで、事務局だけでなく、委員の方にも投げかけさせていただけたらなと思いました。

○中村会長

高橋委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。12歳から18歳のお子さんでも、今の社会状況を踏まえますと、市民意識調査でも先ほど選択肢を検討すると答えさせていただきましたので、こちらの選択肢についても御意見を受けて検討したいと思います。

なお、補足になりますが、市民意識調査の方でいただいた御意見の中で、青少年アンケートにも反映できるものはすべて反映する方向で検討していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

内田委員、お願いします。

○内田委員

問5ですが、類似した質問を埼玉県以外の市で高校生にしたことがあります。青少年の人たちは冷静に見ているなど思ったのは、その市に住み続けたいかと聞いたときに、住み続けたいけど、住み続けられないと言っていました。

それはなぜかという、住宅価格の問題を冷静に考えていたのです。問5と問4を掛け算すれば、住み続けたくないと言った人は問4でどう答えていたかというのは、少し分析はできると思うのですが、問5でなぜそう答えたのかというのは、朝霞市の将来像をどう見ているかという理由です。問4と少しずれた理由になるのかなと思ったので、そのあたりを考慮していただく必要もあるかなと思い、質問しました。

○中村会長

内田委員、ありがとうございます。問5に選択肢をもう1個足した方がいいのではないかと御指摘ですね。これは検討していただければと思います。

星野委員、お願いします。

○星野委員

まず問13、細かいところですが、選択肢の5と6が静かに勉強できる施設、子どもから高齢者まで多世代の触れ合える施設、となっていますが、それ以外の選択肢は場所という表現で、場所と施設という表現を使い分けているのですが、流れからして、あえて5と6を施設にしなくても、場所という表現でいいのではないかと思います。意図がおありになる場合はいいですが、ここ2つの選択肢だけ施設となっているのが気になりました。

また、子どもたちは、小学校で地域社会について、少子高齢化の問題など様々な地域課題についても総合学習などで学んでいて、私の感覚では、12歳の子どもでもしっかりと答えられる項目がほとんどではないかと思っています。

それから感想ですが、新規項目として、あなたが朝霞市長だったらしてみたいことという項目を追加されたということですね。ちょうどこども家庭庁ができてこども基本法が施行され、ようやくわが国でも、子どもを権利の主體的な存在として捉えるようになって、子どもたちの意見をしっかり聞こうという施策がスタートしているので、そういう中でこの新規項目は非常に相応しいのではないかというふうに感じました。

○中村会長

星野委員、ありがとうございました。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。今、3つ意見をいただきましたけども、回答を求められたのは1点目かと思います。6ページの問13ですが、確かに設問の方にも場所という言葉を使っていますので、選択肢の方の表記も合わせていきたいと思っています。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

渡邊委員、お願いします。

○渡邊委員

このアンケートの対象は市内の12歳から18歳ですが、対象年齢が多分6,000人~7,000人くらいで、大人の場合はもっと人口が多いですね。その中で、意見収集をした場合の方向性、差というのは、どういうふうに出てくるのかというのにすごく興味があります。

また、中学生と高校生はしっかり考えていると私は思います。将来のこと、自分のことを考えている年齢だと思います。大人の方で決めつけるのはよくないと思っています。

○中村会長

渡邊委員、ありがとうございます。

今の中学生、高校生は大人が思っているより、しっかりしているということですね。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

ありがとうございます。10月1日時点の12歳から18歳未満だと、だいたい7,500人くらいという数字は取っています。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

7,500人だと、大体7人に1人くらいが該当するということですね。

山口委員、お願いします。

○山口委員

3ページ目の問6は「将来の朝霞市はどのようなまちであればよいと思いますか」と、「イメージに近い言葉」を求めているのですが、この問いはどのような意図があるのですか。

○中村会長

山口委員、ありがとうございます。

事務局から、御回答をお願いします。

○事務局・福田係長

基本構想の将来像を作るためのキーワードとしての活用を検討していけたらと考えています。第5次総合計画ですと「私が暮らしたつづきたいまち 朝霞」がキーワードとなっていて、こういった単語を導き出すために、皆さんが朝霞市に将来期待しているものを引き出したいと考えています。

○中村会長

福田係長、ありがとうございます。

山口委員、お願いします。

○山口委員

キャッチコピーになるようなものをつくるにあたり、この中からヒントを得たいという意図から、ということですか。

○中村会長

山口委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

例えば回答の上位をつなぎ合わせて言葉を作るという考えはございません。これから先のヒントと言いますか、朝霞市をイメージするワードとしてこういうものが出ていますということで、資料としてお見せできると考えています。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

浅田委員、お願いします。

○浅田委員

細かいことですが、12歳から18歳までの青少年ですが、このお手紙のところを見ると、18

歳未満の方と書いてあって、この未満という言葉が引っかかってしまいました。18歳の方にも送るのであれば、未満というのは不思議な感じがするので、どういう理由でこの言葉が入っているのか教えてください。

○中村会長

浅田委員、ありがとうございます。

事務局から、御回答をお願いします。

○事務局・福田係長

説明が足りておらず申し訳ございません。こちらの青少年アンケートは、12歳から17歳までの18歳未満の方を対象としています。年齢の抽出は、令和5年4月1日時点での17歳までの方を対象とします。その方たちに11月下旬に送付するため、送付する際には18歳の方もいらっしゃるからF2の設問では18歳と記しているのですが、もう一つの市民意識調査は18歳以上ですので、12歳から17歳までがこの青少年アンケート、18歳以上が市民意識調査という形で分けています。

○中村会長

福田係長、ありがとうございます。

説明を受けると納得するのですが、これを見ただけだと、分からないと思う人もいるかもしれないですね。

村上委員、お願いします。

○村上委員

今の意見は結構重要だと思いますので、最初の説明に4月1日現在で12歳以上18歳未満の方に送っていますと書いて、回答欄の方は10月1日現在の年齢をお書きくださいと書いておくと、混乱はないかと思います。

○中村会長

村上委員、ありがとうございます。

そこは事務局で再度検討してください。

他に、どなたかございますか。よろしいですか

青少年アンケートの調査項目についても、たくさんの御意見を頂戴いたしました。委員の皆様から出していただいた御意見を事務局で整理、精査し、工夫しながら、青少年アンケートの調査項目を確定していただきたいと思います。ありがとうございます。

今日いただいた御意見を参考に、事務局が調査項目を修正し、それを委員の皆様のところへ送付し、御報告をするという理解でよろしいですか。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

会長一任にて修正し、結果については委員の皆様へ報告を兼ねて送付させていただきたいと考えています。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

それでは本日いただいた御意見を踏まえて、まず事務局で修正案を作成し、その修正案の内容を小職が一度点検した後、事務局において調査項目の確定版を作り、それを委員の皆様のところへ送付し、報告するという方向で考えます。委員の皆様、それでよろしいでしょうか。

○委員

(異議なし)

○中村会長

それでは、今申し上げた方向で事務局に整理していただきます。ありがとうございます。

では最後に、3. その他で、「基礎調査の取りまとめの状況について」、事務局から、御説明をお願いいたします。

◎3 その他 「基礎調査票の取りまとめの状況について」

○事務局・山本主任

総合計画策定の基礎資料とするために行っている基礎調査について、資料5、資料6を基に、これまでの調査状況を報告させていただきます。

はじめに、この基礎調査が何を目的に行うものなのか、御説明します。基礎調査は、時代潮流の

整理や、他の自治体との統計指標の比較等を行うことで、本市の内外の環境を分析し、その結果から見えてくる特徴や課題など、本市の現状を取りまとめ、基本構想や基本計画を検討していく際の、基礎資料として活用するものとなります。

なお、今回お配りした資料5については、あくまでも現時点での調査状況をまとめたものとなっていますので、今後、必要に応じて更に情報を盛り込む等、加筆・修正を行いながら、まちづくりの主要課題の整理を行っていくことを予定しています。そして、最終的には報告書という形で、改めて、本審議会において提示させていただきます。

それでは、資料5の2ページ、「目次」を御覧ください。本資料は、大きく4章に分かれて構成されています。3ページは「基礎調査の目的と項目」についてです。続く4～8ページは「時代潮流の整理」として、本市を取り巻く外部環境について、9～18ページは「主要統計指標の都市比較」として、本市の内部環境について整理したものです。19ページは「今後の予定」となっています。

資料の3ページを御覧ください。ここでは、この基礎調査の「目的」と「項目」について説明しています。調査の目的については、先ほど御説明したとおりです。調査の項目は、(2)に、①から③まで挙げていますが、本日の御報告は、①の時代潮流の整理、②の主要統計指標の都市比較までの内容となります。

4ページを御覧ください。ここでは朝霞市を取り巻く外部環境について、「本市が計画策定において考慮すべき動向」、「10年間という長期計画策定の背景としての動向」という2つの視点を持って、人口問題、子育て支援等、大きく8項目に整理しています。そのため、時代の潮流であっても、計画策定の背景として直接的になじまないと思われる事象、例えば、世界各地における紛争の勃発などについては、こちらには挙げていません。各項目の具体的な内容については、本日は説明を割愛させていただきます。

次に、9ページを御覧ください。ここからは、総合計画策定において考慮すべき本市の内部環境を整理するため、人口、産業、就労等の各種統計指標を用いて、人口移動や地域活性化等に関して、本市と競合・協力関係にあると見られる、近隣や東武東上線沿線の10市との偏差値比較を行っています。

調査項目は、10ページを御覧ください。地勢、人口、産業、就労、生活、安全安心、そして行財政の各分野について調査し、今回の調査で用いている統計指標及びその出典をまとめています。

続きまして、11ページを御覧ください。こちらにおいても、各項目の具体的な内容については、説明を割愛させていただきますが、調査のまとめ方について、「地勢」の調査内容を例に御説明します。まず、上段には、各指標の数値を表としてまとめています。表の上から2行目、「偏差値」とあるのは、比較対象都市の平均を50としたときの本市の偏差値となっています。

中段には、偏差値に関するグラフ、レーダーチャートがあります。点線、データで御覧になっている場合は赤色になっていますが、こちらは比較対象都市の平均を表しており、実線、データ上では青色の線が、本市の偏差値を表しています。つまり、点線の外側に実線があれば、本市の値は比較対象都市の平均を上回っている、ということになります。しかし、単に実線が外側にあれば良いということではなく、例えばここでの「通勤時間」など、下回っている方が良いと考えられる指標もありますので、御注意ください。

そして、レーダーチャートの下段には、図表から読み取れる本市の特徴について、簡潔にまとめています。

以降、各分野について、同様の整理をしております。

最後に、19ページを御覧ください。基礎調査に係る今後の予定として、こちらの資料の内容の充実を図り、取りまとめた後、「まちづくりの主要課題」を整理し、最終的に総合計画策定の基礎資料としていきたいと考えています。

こちらの資料5については、過日行われた総合計画策定委員会、市の部長級職員で構成される会議において、本日と同様に報告をさせていただきました。その際に出された意見をまとめたものが、資料6、標題に「基礎調査に係る策定委員会からの指摘事項等」とある表となっています。

これらの意見については、本日の審議会における御意見と併せて、変更内容の検討を行いたいと考えたため、策定委員会から審議会までの間では、一部、語句整理程度の軽微な修正にとどめ、大幅な変更は加えていません。策定委員会における意見を何点か御紹介しますと、連番の1番では、「統計に用いられている指標等、用語の注釈を入れてほしい」との意見を頂き、今後の取りまとめの中で、必要に応じて解説を加えることとしました。

続いて、連番の4番から8番まででは、本市を取り巻く外部環境について整理している箇所について、項目やまとめ方、字句修正などの指摘をいただきましたので、全体の取りまとめ方法等について、分かりやすく、より良い構成となるよう検討を進めることとしています。

また、連番の10番から13番まででは、本市の内部環境を整理するための他自治体との比較について、比較対象とする都市や統計指標についての指摘をいただき、改めて比較対象都市や指標を検討することといたしました。

こちらの資料6に挙げられている内容のみならず、本日、皆様から御意見を頂き、それらを踏まえて、資料5の内容の充実を図り、基礎調査を進めていきたいと考えています。説明は以上です。

○中村会長

山本主任、ありがとうございます。

ただいま事務局から御説明があった内容について、委員の皆様から、御意見、御質問をお受けしたいと思います。どなたか、おいでになりませんか。

酒井委員、お願いします。

○酒井委員

9ページ目ですが、先ほどの説明でこの比較都市というのは競合・協力関係にあるという観点から抽出した、ということだと理解しました。一般的にと言いますか、民間の場合、同業他社と申しますか、目標とする相手を取り上げてそこを調査し、いろいろな視点から比較分析するというのが一般的なのかもしれません。ここでは競合協力関係にある都市というから、この資料にある都市だけになると思います。

住み続けたいまちという目標があるので、東武東上線沿線じゃなくても、埼玉県で朝霞市よりもっと素晴らしい都市、朝霞市も私は素晴らしいと自信を持っていますが、民間調査などで朝霞市よりも評価点が高い都市がありますよね。そういう都市をベンチマークするというのが一般的かなと思いました。あえて競合だからこの都市にしたというのはわかるのですが、もっと別な視点では検討はされなかったのかどうか、伺いたいと思います。

○中村会長

酒井委員、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

今回は、近隣や東上線沿線ということで取り上げていますが、いただいた御意見を踏まえて、どういった自治体と比較検討していくか、そういった内容もこれから考えていきたいと思っています。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

朝霞市と比較して、朝霞市よりさらに住みよく、環境も良い都市は、どこがあるのでしょうか、難しいですね。

松尾副会長、お願いします。

○松尾副会長

17ページの安全安心についてですが、六角形のグラフというのは、なるべく外に向かって六角形に近い形になるのが理想、あるべき姿なわけですよ。そういう捉え方をするのであれば、病床数は多い方がいい、医師数も多い方がいい、自立する人も多い方がいいのですが、交通事故件数や、刑法犯認知件数は少ない方がいいわけですから、今の表し方では情報の伝わり方が変わってしまうのではないかという気がしました。

○中村会長

松尾副会長、ありがとうございます。

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

お答えします。表し方については、今は単に1つのグラフにまとめていますが、どういった表し方がいいのか、引き続き検討して、データとして皆さんに発信したときに分かってもらいやすい形で提供したいと思っています。

○中村会長

櫻井課長、ありがとうございます。

このままだと、正六角形になると必ずしも好ましいというわけではないですね。

渡邊委員お願いします。

○渡邊委員

犯罪率は少ないほうがいいので、その辺の数値を上手くここに入れ込まないと不格好になってしまいますが、その辺のことを考えていただいて表の形を作っていただかないと、安心感がなくなってしまうので、どうにかできないかなと思います。

○中村会長

ありがとうございます。

村上委員、御専門の立場から、どうしたらよいですか。

○村上委員

見て違和感があるというのは、どこか直した方がいいと思います。項目によって数字の取り方が違ってくると思いますので、そこはもう少し精査するといいのではないかなと思いました。

○中村会長

ありがとうございます。

村上委員、お願いします。

○村上委員

前回の総合計画でも、人口の将来推計や財政について書かれています。今回の基礎調査をベースに、人口や財政の将来見通しを検討される予定かどうか、教えていただけますか。

○中村会長

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

そちらの2点についても、基礎資料として出していく予定です。特に人口推計は総合戦略の方も踏まえて進めていきますが、総合計画の方にとっても大事な資料になるため、引き続き検討していきます。

○村上委員

その際に、前は10年くらいでしたが、もう少し中期の人口推計をしておいた方がいいと思います。なぜかという、病院や学校の環境、社会インフラの維持管理など、数十年かかるものがありますので、少し長めの推計をしておくといいと思います。

財政見通しも、基本計画に出ているものは少しざっくりとしているので、もう少し支出項目別の将来推計や、収入についても、収支の差分がどうなっていくのかなど、少し丁寧に見ておいた方がいいかなと思いました。横浜市は将来財政推計の結果を公表していますので、その辺を参考にされるといいと思います。

○中村会長

櫻井課長、お願いします。

○事務局・櫻井課長

御意見ありがとうございます。人口については、ある程度のスパンで示していきたいと思います。また、財政推計については、財政部署の方でどのような形で出せるかなど、適宜調整してお示ししていきたいと思います。

○中村会長

村上委員、櫻井課長、ありがとうございます。

他にどなたかいらっしゃいませんか。

もしこの資料を御覧いただいております点があれば、できるだけ早めに事務局へお知らせください。それを踏まえて、事務局で内容を再度精査して作成することになると思いますので、よろしく願いいたします。

これで、本日予定していた内容については、一通り終わりました。

「その他」で、事務局から、何かお知らせがありますか。

◎3 その他

○事務局・齋藤主幹

今後の流れについてお知らせします。本日御審議いただいた市民意識調査及び青少年アンケートについては、本日いただいた御意見を踏まえて修正したうえで、11月下旬に対象者への送付を予定しています。基礎調査については引き続き調査を進め、まとめ次第、改めて本審議会において報告をさせていただきます。

また、意識調査と少し時期をずらし、子育て世帯を対象とした調査と朝霞市への転入者、朝霞市

からの転出者を対象とした調査を行います。現在、調査項目について検討を進めており、今後調査票案が固まり次第、委員の皆様にはメールまたは郵便で調査票案をお送りし、御意見を頂戴したいと存じます。本日は参考資料として、平成27年に実施した際の調査票をお配りしました。選択肢の修正等を行います。大まかなイメージとボリューム感については、こちらの参考資料を御確認いただければと存じます。

今後の予定ですが、来年の1月20日（土）に市民ワークショップの開催を予定しています。詳細が固まり次第、委員の皆様にも御案内します。

また、次回の審議会については、各調査の取りまとめ状況を踏まえて、年明け以降に開催を予定しています。開催日時が決まりましたら、後日改めてお知らせをお送りしますので、よろしくお願ひします。

○中村会長

齋藤主幹、ありがとうございます。

子育て・定住に関する意識調査と、転入・転出世帯へのアンケートですが、これらについても何か御指摘いただける事項がありましたら、ここで伺います。特になんかということであれば、事務局から御説明があったように、素案が固まり次第、委員の皆様のところへお送りしますので、メール等で御意見を出していただくということでもよろしいかと思ひます。

よろしいでしょうか。長時間にわたって、貴重な御意見をたくさん出していただき、ありがとうございました。

村上委員、何かありますか。

○村上委員

策定方針を送っていただいて、1点だけ気になる点があります。KPIについて、進捗状況の確認指標という言葉をよく使うのですが、間違った認識をされるケースがあるので、気をつけた方がいいと思ひます。

KPIを進捗状況の確認とすると、例えばシンポジウムを3回開きましたとか、職員が間違った目的を持ってしてしまうことがあります。シンポジウムの目的は、参加市民のうち何パーセントがこういうことについて理解をしたなどです。本来の目的で、指標を取らないといけません。KPIに関しては、今後、設ける際に十分に検討していただければと思ひますし、もう一つ言うと最終ゴールであるKGIも作ったうえでロジックモデルを作ってKPIを設定しないと、単なる言い訳の数字になるので、そこは要注意だと思ひます。今後、十分検討していただき、もし必要であれば一緒に検討できればと思ひます。

○中村会長

村上委員、御指摘ありがとうございます。

第5次後期基本計画の策定時にも、同様の御指摘があったかと記憶しています。ただいま村上委員から出していただいた御意見を参考に、今後、指標等を定めていければと思ひます。

◎4 閉会

○中村会長

他にないようですから、本日の第2回朝霞市総合計画審議会はこれをもって終了します。長時間ありがとうございました。